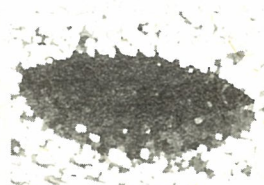


季節を知ったら
暮らしが楽しくなった

（第一〇二号）

啓蟄 けいちつ

三月六日



ホタルの幼虫

ホタルは、水辺の環境のバロメーターともいわれます。

内宮前を流れる五十鈴川にも、かつてはホタルが飛んでいたようです。私も六月の月次祭つきなまつりの時に内宮神域で見たことがありますし、五十鈴川に注ぐ姫子川や神宮会館のあたりでも小さな姫ボタルが見かけられています。

五十鈴川に、ホタルを育てる会が作った水路がお目見えしたのをご存じでしょうか。新橋からやや上流の右岸に掘られた一〇mほどのミニ水路です。ホタルは大きな川では生息しにくいため、五十鈴川にホタルを飛ばす会の井手口克利さんらが、平成二十一年一二月から約三ヶ月かけて掘ったもので、川原の石を利用した苦心作です。

二月半ば過ぎ、この水路に源氏ボタルの幼虫二〇匹が放流されました。同時に、エサとなるカワニナという黒色の小さな巻貝七〇〇個も放たれました。源氏ボタルの幼虫はカワニナしか食べないため、カワニナの生息する水辺でないと育ちません。このカワニナは、宇治浦田町を流れる浦田川で採取したそうで、内宮前はホタルが育つ環境にあるのです。

ホタルは空中を光りながら飛ぶのはわずかな期間で、そのほとんどは水中と土の中で暮らします。井手口さんによると、3cmほどの幼虫は、これから水中でエサであるカワニナを食べながら育ち、四月頃、上陸して土に潜り、繭を作ってその中に入ります。そして、六月成虫となって、飛ぶそうです。上陸する際には、すでに身体が光っているといますから、幻想的な光景なのでしょう。

季節は冬ごもりの虫が這い出るといって啓蟄。ホタルはひと月ほど遅れて、水から這い出してきます。

文 千種清美

